

○議長（河野） 3 番、浜口清海君。

○3 番（浜口） はい。3 番、浜口清海です。

○議長（河野） 浜口君。

○3 番（浜口） 通告に従い、一般質問をします。

「本年の酷暑による本町の熱中症対策について」質問いたします。

本年、令和 6 年を振り返りますと、大きな災害、大きな事故が発生いたしました。元旦早々から能登半島地震の発生、甚大な被害発生、翌日には、日本航空機と海上保安機との羽田空港での衝突事故発生、大きな天災と大きな事故の幕開けとなる衝撃的な年の幕開けとなりました。

それとともに、今年の夏の異常高温は今までに経験したことのない暑さで、11 月初旬まで真夏日が発生し、史上初の記録づくめの暑さでした。この年、5 月～9 月の熱中症による救急搬送者は、全国で 97,578 人、前年比 6,111 人増、6.7%の増加で過去最高となり、死者数は 120 名で、重症者 2,178 名が 3 週間以上の入院となりました。一方、香川県では熱中症による救急搬送者は、1,012 人、前年比 345 人の増、24.2%の増加で、同じく過去最高となりました。11 月の初旬まで暑い日が続いた、地球温暖化を肌身で強く感じたこの年の夏でした。

そして、9 月 21 日、22 日には能登半島豪雨が発生し、最大 1 時間降水量 121mm、3 時間降水量 222mm と降水量の観測史上 1 位の記録を更新しました。今回の豪雨災害は、地震と同様に能登半島に甚大な被害をもたらしました。このような大規模な気候変動、経験したことがないような大規模な豪雨、酷暑、猛暑、そして大規模な気候変動の原因は従来から判明している通り、経済活動の拡大、モータリゼーションの発達、化石燃料による発電、熱の生成によるものです。これらの活動による化石燃料の燃焼によって二酸化炭素が発生し、地球温暖化が益々進んでおります。これからもこの進行を止めることが困難で、益々深刻化しております。

それらを踏まえ、本年の酷暑による本町の熱中症の対策について 3 点質問いたします。

1、年齢別では、高齢者(65 歳以上)の発生率が 54.9%と一番高い比率となっております。その高齢者に対する対策を問います。

2、小中学校、こども園での対策をどのようにしているのか問います。

3、本町における熱中症の発生場所の割合の高い場所を高い順に 3 箇所あげてください。

また、それぞれの場所でのとるべき対策を問います。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） ご質問にお答えいたします。

この件につきましては、本年6月大野議員からの一般質問に対し、熱中症対策について回答しております。今回、気温上昇などに加え、体内の水分や塩分のバランスの崩れ、過度の労働や激しい運動、睡眠不足といった様々な要因により引き起こされる熱中症に対して、実施している内容について説明をいたします。

発生率が高い高齢者への対策についてであります。厚生労働省や環境省が作成しているリーフレット等をいきいきサロンなど高齢者が集まる場で配布し、熱中症予防の普及啓発・注意喚起を行っております。また、高齢者宅への訪問の機会のある民生児童委員やケアマネージャー、ヘルパーなどの民間業者からも注意を促しております。

小中学校、こども園の対策については、小中学校では、各体育館に空調整備を年次計画で設置しており、夏季の間は暑さ指数の測定を毎日行い、一定の値を超えた場合はこまめに休息や給水を取るよう注意喚起しております。また、夏季休業中の部活動後に、児童生徒には冷房の効いた部屋で休んでからの下校を実施しております。スポーツ少年団等へは、十分な注意喚起と研修等の実施を推進しております。

こども園では、「熱中症対応マニュアル」や「環境省熱中症環境保健マニュアル」等を職員が確認し、熱中症の症状や環境要因の理解を図っております。

また、その日の気温や湿度等を考慮し、無理のない活動計画を立てております。一人ひとりの子どもの体調を把握し、活動中も確認をしております。活動中には、水分補給の声かけ、遮光ネットやミストを活用し、熱中症対策を行っております。また、子どもから「体調が悪い」と言いやすい環境づくりにも努めております。

3つめでございます。本町での発生場所で割合の高い場所の対策についてですが、本町における熱中症の発生場所といたしましては、救急搬送24件中、一番多いのは住宅内で14件、続いて運動場が4件、道路が3件、仕事場、店舗、医療施設内が各1件であります。屋内が17件、屋外が7件であります。

予防策として、扇風機やエアコンの適切な利用により温度管理をすること、こまめな休息や水分補給・塩分補給をするとともに普段からの体調管理が大切です。もし熱中症になってしまった場合、重症化させないためには、本人や身近な方の体調の異変に早く気が付けるよう意識し、状態に合わせて涼しい場所に移動したり、体を冷やし水分補給に努めることが大切です。そのような処置を施しても改善しない場合や意識がはっきりしない時には、医療機関の受診が必要となります。

今年度から、熱中症特別警戒情報（熱中症特別警戒アラート）発令時には、防災無線放送により住民及び関係団体に警戒を呼びかけ、速やかに熱中症予防行動がとられるよう指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）の開放についての体制を講じておるところであります。しかしながら、本年度において、46回の熱中症警戒アラートが発令されており、今後も同じ状況が予想されますので、住民に対しまして対応策について広報してまいりたい、そのように考えております。

以上、答弁といたします。

○議長（河野） 再質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、議長。

○議長（河野）浜口君。

○3番（浜口）はい。

○3番（浜口）町長、ご回答ありがとうございます。具体的で確な対応をしていただきまして、ありがとうございます。また引き続きですね、町民の方々の命第一、熱中症は命に関わる重大な案件となりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それとともに他県では高齢者の方が田畑で亡くなる、または重症化する事例が多々発生しております。

このあたりの対策についても、わが町ではないかと思うんですけども、よく注意深くして対策をとっていただきたいと思いましたが、質問をしたいと思います。以上です。

○議長（河野）土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥）はい。

○健康福祉課長（土肥）浜口議員の再質問にお答えいたします。

農作業、こういった屋外での作業につきましては、大変危険が多いところというふうに思っております。

まずは自ら、そういった対策を講じた上でやっていただく、長時間のそういう熱いところでの作業を避ける、そういったことを今後も、周知とかを元に実施していってほしいというふうに思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○3番（浜口）はい、議長。お願いします。

○議長（河野）はい、浜口君。

○3番（浜口）はい。

○3番（浜口）ご回答ありがとうございました。

再々質問させていただきますが、これを回答を要望しているものではありません。私からの要請要望でございます。

私事で恐縮ですが、私の残された命も後20年くらいだというふうに思います。その私の命が絶たれても、50年、100年、200年後も、日本国を、この地球が全人類を、人々の命を育んでいけることを強く願っております。

今回の一般質問では、町長、そして町職員に問いかけただけではありません。我が町の住民の方々の安全のため、香川県にお住まいの方々に、日本全国のために、そして、この地球上で生きているすべての人々が、100年後、200年後に生き続けることができるように、そして全人類、生存維持が可能で、自然環境が守られることを強く願っております。そして、地球温暖化、気候変動への防止策をともに考え、ともに対策実行できればと熱望しております。

最後に、要請です。今年の夏は、厳しい酷暑が続き、多数の方々が、命を絶たれてお

られます。今年5月にイタリアのトリノで開かれたG7環境相会議で、二酸化炭素の排出量の非常に大きい石炭火力発電の2035年までの廃止が決議されました。イタリア、イギリス、フランス、ドイツ、カナダの5カ国は、2030年までにその廃止を表明しました。

なお、イギリスは今年10月に、イギリス最後の石炭火力発電所を廃止しました。つまり、イギリスでは、石炭火力発電所はすべて廃止となりました。しかしながら、日本の石炭火力発電は、我が国の発電量の30.8%を占めており、廃止に向けて、実現策が立てられておりません。

日本国政府、与党、野党すべての国会議員に対し、石炭火力発電所の廃止に向け、地球温暖化防止の対策を早急に取り組むよう強く要請をして、私の一般質問といたします。以上です。

○議長（河野） 以上で、浜口君の一般質問を終わります。